



ぷっくりハート育成推進事業 川内小学校 公開授業

6月30日(水)の14:00より、川内小学校にて、公開授業研、その後学校版寺子屋を行いました。伊野小学校からも3名の参加者がありました。



◇公開授業

第6学年算数科、比「割合の表し方を調べよう」の第1時間目の授業であった。比の導入ということで、レストランを開くという場面を設定し、児童は同じ味のソースをたくさん作るにはどうするかを考えた。実際に調味料を使い、ソースを作って味見させることで、本時に興味を持たせることができていた。

授業後、菊池先生から渡辺先生の授業のしかけの素晴らしさについて、児童に話をされた。また、話を真剣に聞く一人の女子児童を取り上げ、聞く姿の素晴らしさについても共有できていた。



◇研究協議

(1)渡辺先生より

- ・6年生は少人数で素直だが、活発に話し合うことが難しかった。
- ・友達同士気軽に、質問ができるように育てていきたい。

(2)授業参観者より

- ・ノートを読むだけでなく、「それ一緒や」と、友達と意見を深める対話ができたらよい。
- ・友達と円になった時、ホッとして自分の思いが出せた児童がいた。
- ・自分の立場を決めて話し合いをする。少人数でも話し合えるように積み上げが必要。



◇川内小学校版寺子屋

- ①45分間ほとんど先生が喋ってしまう授業から、子どもの質問を中心とした授業に変える。



- ②ディベートは「なぜ思考」を促す。
 - ・対立することで他者を意識する。
 - ・一人一人多様な回答があってよい。
 - ・言葉による自己表現。
- ③動きのある対話・話し合いの授業のため
 - ・教師の介入が必要。
 - ・対立場面を作る。
- ④質問中心のコミュニケーションの経験を重ねる。
- ⑤人と論を区別する。
 - ・みんなで新たな発見を見つける。



◎質疑応答

Q: 介入のポイントとは。

A: 意見を①浅・深②正・誤③仲間分けする作用がある。介入することで意見を深め、授業を一段上げるようにする。また、どの教科でも大事にされるべき約束を1年かけて築いていく。「人と意見を区別する」「人の意見を否定しない」等。

Q: 活発な話し合いにするためには。

A: 話し合いには①拡散②収束がある。拡散とは「何でもいから質問をたくさん出そう」というもの。収束とは「その中からとっておきの1個を選ぼう」というもの。たくさん出しておいて絞ろう、という経験をさせる。



◇「伊野中学校の取組について」

発表者： 伊野中学校不登校担当者
教諭 塩田 早智

【個々の状況に応じた切れ目ない適切な支援強化】 (事例より)

- ① 学校側の一方的な考えだけではなく、子どもの視点から考え、3年間を見越した取組の必要性
- ② SC・SSW等の効果的な活用を推進し、不登校等課題を抱える生徒やその保護者が相談しやすい環境の整備と、状況に応じた支援の充実
- ③ 支援を必要とする子どもを含む全ての子どもが、社会と繋がる力・社会で自立できる力を身につけることができるよう、多方面からの支援・繋がり強化
- ④ 関係機関との定期的な情報共有や相互連携による協働体制の構築

【令和3年度 新規不登校ゼロを目指して】

- ・ 初期対応の取組の充実
→校内支援会での発信・変容の共有、外部機関との連携
- ・ いの町教育支援センター「のぞみ教室」連携の継続
- ・ 個別支援策の充実
- ・ 未然防止に繋げる学校全体の取組強化
- ・ SCによる見取り
→支援の方向性を示し、全職員での共有化

◇未然防止のための各校の取組について情報交換【各グループに分かれての情報交換】



不登校担当者研修会の アンケートより

○佐川中の取組についての講話

- ・ 大変参考になった・少し参考になった
→肯定的評価 100%

◎理由

- ・ 今回の事例を通しての話は、ややもすると見逃されがちな子どもを丁寧に見ていくことや、子ども理解の視点、チーム支援での取組などを再認識するとともに、新たに取り組んでいきたい内容もあり、とても参考になりました。

○伊野中の取組について

- ・ 肯定的評価 100%

◎理由

- ・ 中学校での取組を担当の方から直接お聞きすることができ、小学校で何ができるか、どうつなげるのか、相談できる機会となった。

○未然防止のための各校の取組について

- ・ 肯定的評価 91.7%

◎理由

- ・ 他の学校現状やその対応を教えていただけたので、勉強になりました。
- ・ 時間が足りず、詳細まで聞くことができなかった。初期対応についても他校の取組が知れたらなと思いました。

○感想

- ・ 不登校の未然防止の取組で、エンカウンターやPA等の実践を聞いてみたいです。
- ・ 卒業間近ではなく、早い段階で中学校と児童の情報を共有していきたいと思いました。

※1学期には、各学校でi-checkを実施して、夏季休業中に分析をすることと思います。ぜひ、その分析結果を、2学期からの「不登校・いじめ等の取組」に活用してください。